

# 所 報

## 氷見市教育総合センター

〒935-0016 氷見市本町4-9

(氷見市教育文化センター内)

TEL 0766-74-8220 (代)

FAX 0766-72-8122

e-mail [kyouikukenkyu@city.himi.lg.jp](mailto:kyouikukenkyu@city.himi.lg.jp)ホームページ <http://www.city.himi.toyama.jp/hp/department/Top/kyouiku-1/kyouikukenkyu>

## 教師として変わらないもの



大学に入学したときに教師になりたいと思いました。それも、中学校の教師になりたい

と思いました。中学校の体育教師をしていた父親の影響もあったと思います。教員養成系ではない教育学部だったので、国語、社会、英語の中から、国語を選んで、教員免許を取得しました。また、ハンドボール部に入部し、仲間と共に4年生まで活動しました。

教員採用選考検査では、中・高国語科を受検しました。希望していた中学校で採用になり、氷見市立北部中学校で教員生活がスタートしました。当初は、国語を教える力は全くと言っていいほどなかったと思います。しかし、生徒や保護者の信頼を得るために、先輩の先生方にたくさん教えていただきながら、必死に、教材研究、授業づくり、教科指導の研修に取り組み、自分を鍛えていきました。また、部活動では、ハンドボール部の顧問になり、全国大会出場を目指して生徒と共に練習に励みました。今から思うと、たいへん未熟な指導者だったと思いますが、生徒たちはよく頑張ってくれました。私の教員生活の原点が、北部中学校での6年間にあります。

中学校の国語の教科書に『握手』という小説が掲載されています。その中に「ルロイ修道士」が登場します。ルロイ修道士は、「わたし」が少年時代に世話になった児童養護施設「天使園」の園長です。大人になった「わたし」が、「日本でお暮らしになっていて、楽しかったことがあったとすれば、それはどんなことでしたか。」と尋ねます。ルロイ修道士は「それはもう、こうやっているときに決まっています。天使園で育った子供が世の中へ出て、一人前の働きをしているのを見るときがいつとう楽しい。何よりもうれしい。」と答えます。

教師という職業は、楽しいことよりもつらいことの方が圧倒的に多い職業だと思っています。結果もすぐにはできません。しかし、子供の成長する姿を見ることができたときの喜び、子供と一緒に味わう感動は、他の職業では味わうことのできないものだと思います。

氷見市中学校長会 会長  
氷見市立南部中学校 校長 有島 洋之

中学校の国語科教員として初めて教壇に立つてから35年以上が過ぎようとしています。その間、たくさんの生徒たちと学校生活を共にし、関わってきました。医師、音楽家、研究者、そして、教師になった教え子があります。厳しい修業を経て料理人になった教え子もいます。生徒の保護者として再会した教え子もたくさんいます。今なら私も、ルロイ修道士と同じように答えることができます。「教え子が世の中へ出て、活躍しているのを見るときがいつとう楽しい。」

「不易」と「流行」という言葉があります。この言葉は、江戸時代の俳人、松尾芭蕉の言葉として伝えられています。「不易」とは、「時代を超えて変わらない価値のあるもの」であり、「流行」とは、「時代の変化とともに変えていく必要があるもの」という意味になります。

それでは、学校における「不易」とは、どのようなものでしょうか。学校における「不易」とは、社会で生きる学力、豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力、これらをバランスよく育てていくことだと考えます。そのために学校生活では、「目標（夢）をもち、目標（夢）に向かって自分を鍛え、勇気をもって実践する（挑戦する）こと」が、何よりも大切だと思っています。

今後、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新、人工知能（AI）の進化等、社会は急激に変化していくと予想されます。この時代を生きる生徒たち、そして、その生徒たちを支える先生方には、「不易」と「流行」を十分に見極めつつ、自己実現を図りながら自分らしく生きてほしいと思います。変化に合わせて自分自身を変えていくことも必要になるでしょう。しかし、自分の中で変わらないもの、変えてはいけないものを大切にしてほしいと願います。

皆さんにとって、変わらないもの、変えてはいけないものは何ですか。

「学力向上研修会」

7月29日

テーマ 国語科の授業改善に向けて

講師 福井大学 准教授 萩中 奈穂美 先生



研修会ではまず、児童生徒の言葉への自覚を高めるため、国語科の授業の中で「語彙」指導を充実させることの大切さに触れられました。

参加者は、複数の語句を使い分けるワークや教材文の一部を使った教材研究等の演習を行うことで、普段何気なく使っている語句を自覚的に捉えるということを体験しました。また、国語科における「主体的・対話的で深い学び」の捉え方や、教師は子供の伴走者として授業づくりに取り組むこと等も含め、授業改善につながる多くのことを教えていただきました。

「教育セミナー」

8月2日

テーマ 「ことばの力」で子どもを育てる

講師 菊池道場 菊池 省三 先生



昨年度はリモート開催でしたが、今回は対面での研修会となり、会場は熱気に包まれました。

菊池先生は動画を駆使して実践場面を数多く紹介してくださいました。

教師の仕事は感情労働…明るく上機嫌でいることの大切さや、教室に豊かな言語活動を促すには即興力が重要であること、褒めたり励ましたりする教師の姿勢が大切であり、そのために観察力を磨くこと、コミュニケーションの量を増やし、その質を高め、対話を促して深い学びへとつなげていくこと等々、教員として目指すべき方向性を分かりやすく示してくださいました。

「ふるさと教育研修会」

8月4日

内容 氷見市立博物館や氷見ラボ水族館の見学、郷土の先賢についての講話等

本研修会は、新規採用教員及び転任教員を対象に、郷土に対する理解を深めるとともに、教材としての活用方法を探ることを目的として、毎年実施しているものです。博物館では展示物の解説や紙芝居（祇園祭）の視聴、発刊されたまんが本を活用した斎藤弥九郎についてのお話、ひみラボ水族館での楽しいワークショップ等々、参加者は、郷土の魅力にたっぷり触れながら、ふるさと教育への興味関心を高めていました。



「生徒指導研修会」

8月10日

テーマ SOSの出し方教育と受け止め方

講師 中央大学客員研究員 高橋 聡美 先生



「教師にできる自殺予防」の著者である高橋聡美先生をお招きし、ご講演をいただきました。児童生徒の自殺の現状等について、

データや具体事例を示しながら、分かりやすく教えていただきました。また、SOSの出し方と合わせて受け止め方についても子供たちに教えてほしいということや日頃から子供たちの悩みや困りごとに丁寧に向き合うことが自殺予防教育につながるということ等について、先生ご自身の体験を交えて熱く語ってくださいました。参加者からの質問にもじっくりとお答えいただき、充実した時間となりました。

「グラフィックレコーディング」

8月24日

内容 板書等に生きる文字や絵での記録（第2弾）講師 トークグラフィッカー® 山口 翔太 先生

グラフィックレコーディングの効果には、「文字、音、映像と異なり、一目見ることで全体像が分かる。話合いをスムーズに展開」「テキストでは分かりづらい曖昧で複雑な関係性が明確になる。すれ違いを減らすことができる」「表情や場の雰囲気や色で表し、コミュニケーションのサポートとして使うことができる」などがあり、参加者は、実際に太いペンを使ってグラフィックレコーディングを体験し、学校現場での活用について考えることができました。



## ENGLISH セミナー2022 ～私のおすすめする「氷見のすてき！」～

7月26日（火）に「ENGLISH セミナー 2022」を開催しました。市内小学校・義務教育学校の6年生が、「私が ALT におすすめする氷見のすてき」や「私が自慢したい日本文化」のテーマでプレゼンテーションを行いました。33名の参加者が、日頃の外国語科の授業で学習したことを生かし、ジェスチャーを交えながら、堂々と自分の考えを発表しました。

また、西條中学校英語部の生徒7名が、モデルプレゼンテーションを披露しました。ALT による楽しいクイズもあり、参加者全員で ALT の母国の国旗や好きな場所、好きな日本の食べ物について話し、日本の文化や生活の違いに触れながら楽しい時間を過ごしました。



<ALT のクイズに答えます！>



<声を合わせて「We Love HIMI!!」>



<We can enjoy a nice view!>



### 小・中学生の力作がいっぱい！

#### <氷見市児童生徒科学作品展覧会>

開催期間 9月10日（土）～11日（日）

開催会場 氷見市教育文化センター 4階ホール



今年度の児童生徒科学作品展覧会には、小・中・義務教育学校から63点の作品が集まり、約260名の来場がありました。子供らしい視点で身近な自然に目を向け、興味をもったことや不思議に思ったことに心を躍らせながら、観察・実験に取り組んだ力作揃いでした。

審査の結果、以下の4作品が、富山県科学展覧会に出品されました。

作品名	学校・学年	名前	県科学展
かにたろう ～ぼくちんにやってきたかにのひみつ～	比美乃江小学校 2年	洲崎 佳佑	研究努力賞
野菜の新せんさを保つには？	比美乃江小学校 5年	谷井 知歩	研究努力賞
かぶと虫王国を作ろう③ ～土がななめになっている謎にせまる～	窪小学校 5年	辻 百英乃	研究努力賞
土と水の関係 ～水による土の硬さの変化～	北部中学校 1年	山本 悠月	研究努力賞

## ICT教育の推進に向けて

### 【電子黒板活用研修会】

これまでに2校から希望があり、ご要望に合わせて実施しました。実施希望は、随時受け付けておりますので、教育総合センター（担当：焼田）まで、いつでもご連絡ください。



7月27日 窪小にて



9月5日 宮田小にて

### 【「e ライブラリアドバンス」活用研修会】

9月下旬から10月上旬にかけて計4回オンラインで開催し、合わせて43名の先生方にご参加いただきました。

特に、先生から児童生徒に課題を出題する方法等について、実際に端末を操作しながら研修を進めました。

今後一層の活用を進めていただければと思います。



## 新規採用教員 — 半年を振り返って —



間違えていいんだよ！大丈夫！

比美乃江小学校 関原 宙希

中学生の頃から憧れていた教員になり、あっという間に半年が過ぎた。私は4月から子供たちに「間違えることは成長のために大切なことだ」と伝えてきた。ある日、A児が問題を間違えた。そのときB児が「間違えていいんだよ！大丈夫！」と声をかけ、周りの子供たちも「そうだよ！」と励ました。そのときに自分の思いが伝わり、子供たちが成長していると感じることができた。それと同時に、教員は子供の人生に大きな影響を与える責任の重い職業であることを実感し、身が引き締まる思いがした。学級の子供全員が楽しく学校生活を過ごすことができるように、これからも子供と共に学び続けていきたい。



学び続ける教員を目指して

海峰小学校 廉 千怜

教員になって、あっという間に半年が過ぎた。毎日、子供たちや先生方から多くのことを学びながら、忙しくも楽しい充実した日々を過ごすことができています。

3年生は、地域の特産品であるマコモタケとリンゴについての学習をしている。その学習では、地域の方の協力のもと、植付や摘果、収穫等の体験活動をさせていただいており、私自身も多くのことを学んでいる。地域と連携した教育ができるこの学校で貴重な体験をすることができ、本当にうれしく思っている。今後も、支えてくださる先生方や教育活動に力を貸してくださる地域の方々への感謝を忘れず、あらゆることから学び続け、子供と共に成長できる教員でありたい。



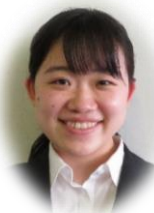
教員としての半年間を振り返って

窪小学校 大越 咲由莉

昨年1年間の臨任講師を経て、念願の教員となり、あっという間に半年が過ぎた。

初めて自分の学級をもち、子供たちと関わることが楽しくてうれしいと思う反面、思うようにいかず頭がいっぱいになってしまうことがほとんどだ。心に余裕のない自分が嫌になってしまう。でも、子供たちが朝、「おはようございます！」と元気に教室に入ってきたり、真剣な目で考えて発表をしたりしている姿を見ると、「頑張ろう」と気持ちがリセットされる。

これからも大変なことはあると思うが、子供たちと共に前向きに学び続ける教員でありたい。



新規採用教員の半年を振り返って

西條中学校 曾根 果

生徒の明るさや同僚の先生方の温かさに支えられている毎日である。4月の中旬、授業中に行った実験が失敗に終わったことがあった。自分の判断力と授業計画の未熟さを後悔し、しばらく落ち込んでしまった。そんなとき、同僚の先生方が温かい声をかけてくださり、前を向くことができた。また、部活動で試合に勝てるか不安に感じている生徒に対し、「絶対に大丈夫だから今は目の前の試合に集中しよう」と声をかけたことで生徒が試合に集中し、喜びを分かち合えたこともあった。

これからもコミュニケーションを大事にし、生徒はもちろん、周囲の人たちの心に寄り添える教員になれるよう努めていきたい。



教員としての半年を振り返って

湖南小学校 中 郁哉

子供の頃からの夢だった小学校の教員になり、あっという間に半年が過ぎた。

半年間を振り返ると、毎日が手探りで、上手くいかないことがたくさんあった。しかし、子供たちが楽しんで活動している様子や自分から進んで学びに向かう姿勢を見ているうちに、教職のやりがいを強く感じるようになった。1学期の終業式の日、ある子供が「夏休みに先生と会えなくてさみしい」と言いに来てくれた。初めて担任となり、上手くいかないこともたくさんあったが、子供と関わる幸せを改めて感じた瞬間だった。これからも子供たちと共に学び合える教師を目指して頑張っていこうと強く思う。